

平成 19・20 年度 土木学会複合構造委員会 第 12 回幹事会議事録

1. 日 時：平成 21 年 2 月 27 日（金）14:00～17:00
2. 場 所：鹿児島県青少年会館 小会議室
3. 出席者：中島委員長，渡辺幹事長，大垣幹事，葛西幹事，島幹事，田中幹事，西崎幹事，古市幹事，溝江幹事（欠席者：横田副委員長，池田幹事，大山幹事，杉浦幹事，武知幹事，本間幹事，山口幹事）（敬称略）

4. 配布資料

- |              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 資料 幹 12-1    | 平成 19・20 年度 第 11 回幹事会議事録（案） |
| 資料 幹 12-2    | 平成 19・20 年度 第 4 回委員会議事録（案）  |
| 資料 幹 12-3    | 平成 20 年度委員会予算執行状況           |
| 資料 幹 12-4    | 平成 21 年度「重点研究課題（研究助成金）」申請書  |
| 資料 幹 12-5-1  | 平成 20 年度総会議案書作成資料－主要事業      |
| 資料 幹 12-5-2  | 平成 20 年度総会議案書作成資料－各種委員会     |
| 資料 幹 12-6    | 平成 21 年度全国大会研究討論会の企画募集案内    |
| 資料 幹 12-7    | （欠 番）                       |
| 資料 幹 12-8    | 土木学会論文集部門 A 編集小委員会再編会議メモ    |
| 資料 幹 12-9-1  | 新小委員会と今後想定される活動             |
| 資料 幹 12-9-2  | 樹脂材料による複合技術研究小委員会 設立趣意書（案）  |
| 資料 幹 12-10-1 | 土木学会発行図書の販売状況に関する連絡         |
| 資料 幹 12-10-2 | 平成 19・20 年度 各新刊の収支（1 月末）    |

5. 議事次第

(1) 第 11 回幹事会議事録案の確認（資料 幹 12-1）

渡辺幹事長より前回幹事会議事録案が読み上げられ，一部の語句修正を行うことで承認された。

(2) 第 4 回委員会議事録案の確認（資料 幹 12-2）

溝江幹事より前回委員会議事録案が読み上げられ，一部の語句修正を行うこととなった。

(3) 平成 20 年度委員会予算の執行状況（資料 幹 12-3）

渡辺幹事長より，平成 20 年度委員会予算の執行状況について説明があった。

- ・国際連携小委員会の残予算は，複合構造標準示方書小委員会検討部会（3 月末開催予定）の旅費に充てる。
- ・印刷費は年度の最後に請求されることから，この時期での予算割当は難しい。そのため，今年度内の委員会活動における資料のコピーは極力控えて欲しい。
- ・維持管理小委員会，FRP による鋼および複合構造の補修・補強小委員会などで残予算が発生する場合には，複合構造委員会編集の書籍の購入に充てるので了解願いたい。

(4) 平成 21 年度重点研究課題の申請報告（資料 幹 12-4）

渡辺幹事長より，平成 21 年度重点研究課題の申請について報告がなされた。

- ・委員会委員からの提案が無かったため，幹事会案を採用した。
- ・研究課題は「複合構造化による構造物の延命化に関する研究」とし，研究代表者は杉浦幹事とし

た。

(5) 平成 20 年度総会議案書の作成報告（資料 幹 12-5-1, 幹 12-5-2）

中島委員長より、平成 20 年度総会議案書の作成について報告がなされた。

(6) 平成 21 年度年次学術講演会研究討論会について（資料 幹 12-6）

渡辺幹事長より、平成 21 年度年次学術講演会研究討論会の企画募集案内（募集締切は 3 月 18 日）について説明があった。議論の結果、維持管理小委員会と FRP による鋼および複合構造の補修・補強小委員会の共同担当で、重点研究課題と同じ「複合構造化による土木構造物の延命化」をテーマとして申請することとなった。

(7) 第 8 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウムについて（資料なし）

中島委員長より、第 8 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウムの準備状況について報告があり、会告の案内が土木学会誌 4 月号に掲載される予定であるとのことであった。

(8) 土木学会論文集の再編について（資料 幹 12-8）

中島委員長より、2 月 27 日に行われた土木学会論文集部門 A 再編会議の議事内容について報告があった。

- ・再編後の経費は現状を越えないことが絶対条件であり、その削減分で英文論文集を発行予定であるとの説明を受けた。
- ・土木学会論文集部門 A は新しい構造工学論文集に一本化して年 4 回の発行とすること、従来の構造工学論文集や応用力学論文集、地震工学論文集は special issue として年 1 回の発行とすることが提案された。
- ・その際、新しい編集委員会を構造工学委員会の中に設置する案が出された。

これに対し、以下のような議論が行われた。

- ・土木学会自体の予算削減にはなっていないように感じられる。土木学会論文集はどうあるべきかについて議論すべきである。
- ・編集委員会は各調査研究委員会から委員を派遣して構成することが望ましい。また、連合委員会として独立した調査研究委員会とすることも考えられる。いずれにせよ、複合構造委員会が複合構造部門の投稿論文に対する編集権を有することが重要である。
- ・編集委員会の役割は投稿された論文を適切な査読者に割り振ることであり、困難な場合には執筆者に査読を担当する委員会を指名していただくことも案として挙げられる。

また、葛西幹事の部門 A 編集委員会幹事としての任期が 3 月末で終了することについて、大垣幹事を委員として推薦していただくことを申し合わせた。

(9) 新小委員会の設立について（資料 幹 12-9-1, 幹 12-9-2）

渡辺幹事長より、次年度の設立が提案されている小委員会と今後想定される委員会活動について説明がなされた後、西崎幹事より FRP 複合橋梁設計施工指針小委員会（第一種）について準備状況が報告された。

- ・小委員会メンバーは FRP 複合橋梁小委員会メンバーと複合構造標準示方書小委員会メンバーで構成することを想定している。
- ・FRP 複合橋梁小委員会の幹事会の中では、九州大の日野先生に委員長をお願いしてはどうかとの意見が出されている。

これに対し、議論の結果、中島委員長より日野先生に小委員長就任の依頼をすることとなった。

また、大垣幹事より、樹脂材料による複合技術研究小委員会の設立趣意書案について説明があった。

議論の結果，次回委員会で承認を得ることとなり，引き続き委員会設立に向けて準備を進めることとなった。

さらに，今後の研究小委員会数の増加に対応し，既に終了した小委員会も含め，小委員会に番号を付すこととなった（第一種小委員会は 101, 102, . . . , 第二種小委員会は 201, 202, . . . ）。

(10) 出版関連（資料 幹 12-10-1, 幹 12-10-2）

中島委員長より，平成 19・20 年度新刊図書の販売状況について説明がなされた。

(11) 委員長挨拶

中島委員長より，平成 19・20 年度の最終幹事会の閉会にあたり挨拶があった。

以上（記録・文責 溝江 慶久）